

# 「地域協議会活動実態調査」集計結果の報告

AD拡大推進チーム「地域協議会活動実態調査」担当

前号（4月号）でもご紹介したように、財団は今年新5か年計画の3年目となり、全国の地域協議会と連携・協働により「フレイル予防事業」の全国展開、また各自治体への「100歳大学」導入設置へ向け、活動しているところですが、人生100年時代に合った新しい地域協議会及び財団の構築が求められています。

設立以来の財産と経験を継承しつつ、新しい時代にマッチした地域協議会及び財団を構築していくには、アドバイザー養成事業の充実と登録アドバイザーが増が求められているの言うまでもありません。そこで、地域協議会の益々の発展に向けて、各協議会の活動状況及び財務状況の現状（ヒト、モノ、カネ）を把握し課題・問題を共有することを目的に、この度「地域協議会活動実態調査」を実施しました。

今号では、その調査結果の概要をお知らせします。

## 1. 調査の目的

- ・ 人生100年時代に相応しい地域協議会及び財団の今後の活動への参考とすべく、全国の地域協議会の事業内容・活動内容及び財政事情の実態を把握することを目的に実施。
- ・ 特に、事業内容とその実践のためのノウハウ、人材、収支状況について聞き取りを含めて実施。

## 2. 調査対象

- ・ 全国の30協議会を対象に実施し、27協議会から回答あり（※アドバイザーをADとして表記）

1. 北海道（一社）健康生きがいくくりAD北海道協議会	15. 富山県 富山協議会
2. 茨城県 茨城県健康生きがいくくりAD協議会	16. 山梨県 山梨県健康生きがいくくりAD協議会
3. 栃木県 栃木県健康生きがいくくりAD協議会	17. 静岡県 静岡県健康生きがいくくりAD協議会
4. 埼玉県 生きがいの会	18. 滋賀県 滋賀健康生きがいくくり協議会
5. 埼玉県 ときめきライフ埼玉	19. 大阪府 生きがい大阪
6. 川口市 川口市健康生きがいくくりAD協議会	20. 大阪府 健康生きがいくくり堺協議会
7. 千葉県 健康生きがいくくり千葉県連絡協議会	21. 兵庫県 兵庫県健康生きがいくくり協議会
8. 千葉県 健生東葛会	22. 奈良県 奈良県健康生きがいくくり協議会
9. 東京都 健康生きがいくくり東京都協議会	23. 和歌山県 和歌山県健康生きがいくくりAD協議会
10. 東京都 多摩健康生きがいくくりAD協議会	24. 岡山県（一社）健康生きがいくくり岡山
11. 東京都 健康生きがいくくり品川協議会	25. 広島県 広島健康生きがいくくりAD協議会
12. 神奈川県 神奈川県健康生きがいくくりAD協議会	26. 山口県 山口県健康生きがいくくりAD協議会
13. 新潟県 健康生きがいくくり新潟	27. 徳島県 徳島県健康生きがいくくりAD協議会
14. 新潟県 長岡健康生きがいき創生ネットワーク	

※決算のタイミングと重なり、愛知、京都、福岡の各協議会からの回答はなし。



### 3. 調査期間と調査方法

- ・調査票の発送は2月27日、回収締切りは3月25日、調査方法は 調査票の郵送回収による。

### 4. 主な調査項目

- (1) 協議会名 (2) 設立年月日 (3) 会員数 (①登録会員数 ②実際活動会員 ③平均年齢 ④平均年齢)
- ⑤男女比 他) (4) 活動・事業 (①主な活動3つ ②主な事業3つ ③収入活動・事業3つ
- ④活動・事業への提案3つ) (5) 収支状況 (①収入内訳 ②支出内訳 ③収支結果) 他

### 5. 集計結果の概要

#### (1) 登録会員数別協議会数

会員数	10人以内	11~30人	31~50人	51~100人	101人以上
協議会の数	3	12	6	5	1

- ・登録会員数を見ると、もっとも多いのが「11~30人」の12協議会で、続いて「31~50人」の6協議会、「51~100人」の5協議会でしたが、「10人以内」が3協議会であった。
- ・会員数のもっとも多いのは神奈川県で204人、続いて北海道99人、静岡と滋賀69人。
- ・なお、実働会員数で見ると、おおよそ登録会員の60~70%であった。

#### (2) 登録会員の平均年齢

- ・平均年齢が70~75歳の協議会が半数以上あり、回答のあった25協議会の平均は71歳。
- ・もっとも低かったのは和歌山60歳、続いて長岡66歳で、5つの協議会が60歳台であった。逆にもっとも高かったのは東京多摩と大阪堺の78歳であった。

#### (3) 活動内容及び事業内容

##### <活動内容>

- ・各協議会とも「健康生きがいづくり活動」として主に次の3分野の活動を実施している。
- ①社会参加活動の分野
  - ・「講演活動」「地域貢献活動」「会員交流活動」「地域カフェ活動」「フレイル予防活動」「100歳大学活動」等
- ②健康分野の活動
  - ・「体操(運動)クラブ」「ノルディック・ポールウォーキング」「ディスプレイ」等
- ③経済分野の活動
  - ・「資産活用相談」「就労支援」等

##### <事業内容>

- ・養成講座事業を軸に「講座事業」「健康づくり事業」「イベント事業」等を実施しているが、その多くは規模も小さく有償ボランティア的なものが多い。
- <アドバイザーの収入につながる活動>
- ・講師活動による収入、健康づくり活動・各種イベント開催時の指導者・世話役収入が多い。
- ・また、週に2~3日勤務で月額2~10万円をめざす「年金+a」の生きがい就労型収入が多い。

#### (4) 運営収支の状況

- ・事務所経費を負担しているのは12協議会あり、その負担額は最大で30万円(年額)であった。
- ・なお、黒字の協議会は10に留まり、収支差額±0の協議会が15、赤字協議会が2つあり、協議会運営の厳しい状況がうかがえた。

## 6. まとめ

- ①アドバイザー養成講座受講者増をめざす  
 ・各協議会とも登録会員の平均年齢が年々高くなり、若年会員（後継者）の増加が急務であり、アドバイザー養成講座受講者増へ工夫と対応が必要である。なお、昨年7月に新テキスト「人生100年時代の新ステージへ」が完成したことによる効果を期待。

### ②協議会の財政事情

- ・10年前と比較しても登録会員の減少が続き、特に会費収入が基盤の協議会にとっては厳しい財政状況が続いている。

### ③財団及び協議会の収益事業への期待

- ・事業の現状は前述の通り、「講座事業」「健康づくり事業」「イベント事業」等が見られるが、大きな収益事業とはなっていないのが現状である。（有償ボランティアの事業に留まっている。）
- ・しかし、規模は小さく有償ボランティアの事業であっても、時代に合致した魅力的且つ一般市民に受け入れられるものであれば、新たなアドバイザー確保となり「生きがい就労」へも繋がっていくものと思われる。（事例／奈川健生が取り組む「成年後見人活動」＝「財団事業案内」に紹介）

### ④協議会の発展に向けて

- ・協議会活動の基本姿勢は「学び＋活動の活性化」であるが、アドバイザーの平均年齢71歳の現状を考えると、各協議会とも頑張っているといえる。
- ・しかし、社会に貢献出来る協議会活動には会員数の増加、活発な活動を支える運営費の確保が必須であり、その上で魅力ある事業の開発が急務である。
- ・その一つの考え方として、行政との協働による助成金対応事業の受託、民間企業・団体との連携・協働による収益性の高い事業（CSR的な少ない社会貢献的事業）の実施が一つの方向性として考えられる。

### ⑤魅力ある活動及び事業の事例として

- ・6月発行の「財団事業案内」（A4×12P、オールカラー）に紹介した活動事例は以下の通り。

活動地域	実施（活動）事業名
1. 新潟県	新潟市のフレイル予防事業への参画
2. 神奈川県	ノルディック・ポールウォーキングを通じて広がる仲間づくり
3. 滋賀県	「栗東100歳大学」の開校とその効果
4. 埼玉県	川口市「盛人大学」の企画運営
5. 神奈川県	横浜市に「コミュニケーション」を開設
6. 和歌山県	「健康生きがいづくり一席」で楽しくふれあい交流
7. 新潟県	「長岡健康生きがい創生ネットワーク」を通じ地域の活性化
8. 神奈川県	やりがいのある「成年後見活動」に参加

### ⑥財団・協議会の発展を支える事業化

- ・生涯にわたる生きがいを支える「社会参加」「健康分野」「経済分野」での発展を柱とする事業が全国展開できることが理想である。
- ・重要なことは、各協議会が実施する活動・事業を通じて新規登録会員が確保でき、リーダーが生まれ、各種事業に参加するアドバイザーに交通費及び手当を支払うことができる位の規模と内容があり、リスキの少ない事業が展開できる協議会が理想といえるのではないか。



・この状況に達している協議会として、神奈川、滋賀の協議会が参考になると思われる。

#### ⑦財団の役割

・財団の役割は、学び+協議会活動の支援+アドバイザー認定事業であるが、会費収入のみでは無理があり、大口賛助会員の確保、フレイル予防事業のような認知度の高い事業の展開が必要である。

以上

今回の調査にご協力いただいた協議会及び担当者の方々へ感謝を申し上げます。

## 近刊案内

### 6月発刊

## 新「財団事業案内

## ～人生は二幕目がおもしろい～」完成!



一生財団法人 健康・生きがい研究財団

(A4、16P、オールカラー)

○財団事業の紹介及びアドバイザーの活動事例を紹介したもので、「アドバイザー養成講座受講案内」(A4、4P、オールカラー)と合わせてご活用ください。

○各地域協議会には必要部数をお送りする予定ですが、ご希望の方は財団までお問い合わせください。

#### <内容>

- ・辻理事長挨拶「『健康生きがいづくりアドバイザー』は、今社会に求められています」
- ・「健康生きがいづくりアドバイザー」認定・登録の流れ
- ・「フレイル予防事業」の推進、全国の自治体に「100歳大学」の設置を推進
- ・アドバイザーの地域貢献活動事例紹介(8事例)
  - ・健康・生きがい分野—2例
  - ・社会参加分野—2例
  - ・地域の活性化、仲間づくり、まちづくり分野—3例
  - ・生きがい就業分野—1例
- ・「健康生きがいづくりアドバイザー全国大会」及び「健康生きがい学会」紹介
- ・財団発行図書・テキスト紹介、全国の地域協議会一覧